

社会の一員として役割と責任を認識し、健康で心豊かな社会づくりと地域社会・国際社会の発展に貢献します。

社会貢献活動の考え方

私たちは進学・就職・結婚・出産・育児・退職、そして病気・ケガ・介護等、そのときどきの様々なライフイベントを経験しながら人生を送っていきます。住友生命は、人生の不安を解消し、自信と希望をもって、力強く未来に進むための大きな「力」となる生命保険をお届けするとともに、社会・地球の一員として、より良い未来を作っていくために、生命保険と関わり合いの深い社会的課題への取組みも大切にしてきました。

当社の社会貢献活動は、お客さまやお客さまにとって大切な方々、そしてより広く私たちを支えてくれるすべての皆さまに対して、未来の様々なライフイベントを楽しみ、力強く乗り越えて、豊かで明るい人生を送れるよう応援したい、そうした想いから、健康増進のための取組みや、子育て支援等次世代を応援する取組みなどを、積極的に進めています。



1. 健康増進

いつでも、どんなときでも、安らかに、すこやかに、そして明るく生きていくことができる未来になるよう、保障の枠を超えて、もっともっと支えていきたい。

住友生命は、適度な運動を継続することの大切さをお伝えするとともに、運動のきっかけづくりをお手伝いします。それによって、一人ひとりにとってより良い健康状態の実現

と、健康長寿社会の実現に貢献したいと考えています。

また、病気やケガ、障がいといった人生の「もしも」が起こったとしても、「負けずに強く生きていきたい」、「豊かで充実した人生を送りたい」という願いをかなえることができるよう、応援し続けていきたいと考えています。

2. 子育て支援

子どもたちは「未来を支える社会の宝」です。次の世代を担う子どもたちの明るい笑顔は私たちが「強く生きる」ための明日への力となっていくものです。

子育てのすばらしさを伝えたい。社会全体で子どもを見

守り育てていく環境を築きたい。未来を託す子どもたちがのびのびと育っていく環境づくりに向けて、住友生命はこれからも支援を続けていきたいと考えています。

3. 職員ボランティア(スミセイ・ヒューマニー活動)

「人間味あふれ(ヒューマン)、地域社会との調和を図れる(ハーモニー)企業でありたい。」これが住友生命役職員一人ひとりによる社会貢献活動の原点でした。そして、この決意は、地域社会の枠にとどまることなく、グローバルな社会的課題へと、より先進的で柔軟な発想をもって活動の範囲を

広げてきました。

住友生命は、企業市民の一員として、職員の社会貢献意識の更なる醸成を図り、職員一人ひとりが身近な地域社会や、国際社会が抱える様々な課題を解決する一助となることも大切であると考えています。

健康増進

住友生命創業110周年記念社会貢献事業 「スミセイバイタリティアクション」

住友生命は、おかげさまで平成29年度に創業110周年を迎えました。110周年の感謝の気持ちを込めて健康増進をテーマにした新たな社会貢献事業「スミセイバイタリティアクション」を開始します。



スミセイバイタリティアクションのコンセプト

「たいせつな人とカラダ動かそう！」

スミセイバイタリティアクションは、大切な人と一緒に運動することで、健康に、そして幸せになっていただきたいという想いを込めたプロジェクトです。

健康増進のためには、適度な運動を継続することが大切です。運動を継続いただくために「大切な人と一緒に運動する」ことを推進したいと考えています。



スミセイバイタリティアクションの取組み

運動を始めたいといただくきっかけづくりのために

全国110箇所で、様々な種目のトップアスリートによる「親子スポーツイベント」等を開催していきます。親子一緒に運動することで、健康増進を図るとともに、家族の絆も深めていただきたいと考えています。

また、仲間や友だち、家族と一緒に楽しんで走ることで健康増進につながるRUNイベント等への参画も予定しています。イベント開催情報については、ホームページにて順次お知らせいたします。

健康に関する理解を深めていただくために

一般財団法人住友生命福祉文化財団や、公益財団法人住友生命健康財団と連携し、健康をテーマとした講演会を全国で開催します。また、啓発冊子の配布等を予定しています。

- スミセイ ウエルネス セミナー
(一般財団法人 住友生命福祉文化財団)
- スミセイライフフォーラム
(公益財団法人 住友生命健康財団)

認知症サポーターの養成

平成21年度から所定の研修を通じて、これまでに10,400名(平成29年3月末現在)の認知症サポーターを養成しており、金融機関ではトップクラスの実績です。

※認知症サポーターとは「認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者」で、厚生労働省が始めた取組みです。

研修の様子



認知症ケアに取り組む団体を支援

電話相談、研修、機関紙発行などの活動を行い、認知症ケアに取り組む団体を支援しています。

【支援先団体】・公益社団法人 認知症の人と家族の会
・公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

住友生命総合健診システム(人間ドック)

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

昭和35年に移動診療車による健康診断からスタートした住友生命総合健診システム(人間ドック)は、予防医学の観点から、生活習慣病の早期発見および健康管理を目指し、スタッフ・設備の充実、きめ細かい受診者対応に努め、多くの方に受診いただいています。



地域医療貢献奨励賞

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

医療に恵まれない地域における医療の確保と向上および地域住民の福祉の増進を図るため、地域医療に多大な貢献をされている医師を対象とする「地域医療貢献奨励賞」の顕彰を、平成19年度から自治医科大学の後援を受け、実施しています。

がん患者団体等への支援

がんの早期発見や早期治療、患者さんとその家族の支援に取り組む団体に対して支援を実施しております。

【支援先団体】
・公益財団法人 日本対がん協会
・特定非営利活動法人 がんサポートコミュニティ

ピンクリボン運動を応援

乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える活動として平成19年度からピンクリボン運動を応援しています。

全国約3万人の営業職員が胸にピンクリボンバッジをつけて、ピンクリボンのメッセージをお客さまに伝えていくとともに、オリジナルのチラシをお配りしています。



© 2017 The Pygos Group



営承P605

また、使用済み切手を回収し換金の上、日本対がん協会「乳がんをなくすほえみ基金」に寄付しています。寄付金は乳がん検診機器の整備などに役立てられています。

「闘わないがん治療:粒子線セミナー」の開催

すべての方々に向けて「最先端のがん治療・粒子線治療」の啓発活動を行っています。

平成20年3月から、医学博士 菱川良夫先生(現兵庫県立粒子線医療センター名誉院長・メディポリス医学研究所副理事長)を講師にむかえセミナーを実施しており、これまでに116回開催し20,000名超のお客さまにご聴講いただいております。また講演のダイジェストと菱川先生のインタビューを収録したDVDも12万枚以上配布しております(実績は平成29年3月末現在)。



「闘わないがん治療」DVD

がんに関する情報発信

がんについての正しい情報を全国の皆さまにお届けすることを目的に、啓発冊子「知っておきたいがんのこと」を国立研究開発法人国立がん研究センター監修のもと作成し、日本全国の皆さまに配布しています。

また、同機関に監修いただき、がんを予防する生活習慣について説明するツール「がん予防サポーター」を作成し、ホームページ上で公開するとともに、営業職員を通じお客さまへ情報発信を行っています。



子育て支援



子どもたちの未来を強く明るいものとするために、表彰制度等様々な支援事業を行っています。

住友生命の表彰事業

■子育て支援活動の表彰

子どもたちの成長を、地域みんなの力で応援するため、住友生命では、子育て支援に取り組む団体や個人を表彰し、その貴重な活動をサポートしています。

■スミセイ女性研究者奨励賞

女性研究者の研究と子育ての両立を支援するための助成金制度を設けて支援を行っています。



第10回厚生労働大臣賞受賞団体の活動の様子

こども絵画コンクール

未来を担う子どもたちの夢を育み、心豊かな成長をお手伝いしたいという思いのもと昭和52年にスタートした「こども絵画コンクール」は今年で41回目を迎えました。全国各地および海外からご参加いただき、開始からの応募総数が1,099万点を超えるコンクールへと成長しました。

平成12年度からはフランス国立ルーヴル美術館の後援を受け、毎年同美術館にて優秀作品の展示を実施しています。

その他、昭和61年度から絵画コンクールを通じて日本ユニセフ協会の活動を応援しており、「お渡しした画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円」を寄付しています。

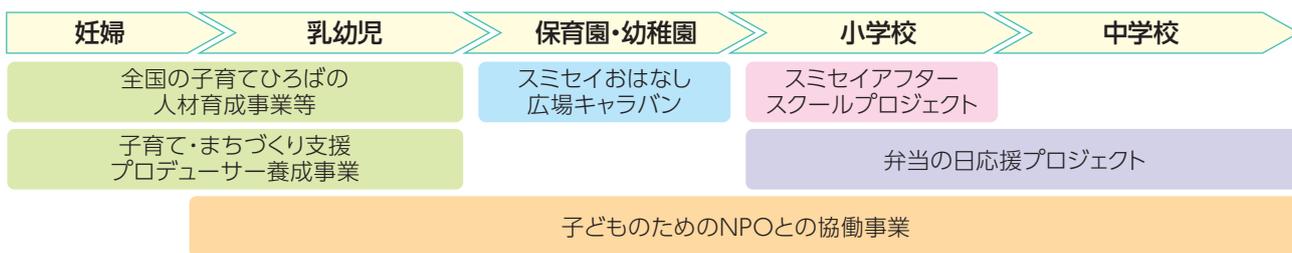


第40回文部科学大臣賞
「かぞくなかよし」 中村 綾乃さん(4歳)

子どもたちの居場所を豊かに

当社では、子どもたちの健やかな育ちと社会全体での子育てを応援するため、「子どもたちの居場所」にスポットを

あて、出産前から児童期にわたる切れ目のない支援を行っています。



子育てひろば支援

■全国の子育てひろばの人材育成、コンサル、ネットワークづくり支援

NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会

全国約1,000箇所の子育てひろばが会員となっているNPO法人子育てひろば全国連絡協議会の活動を支援しています。



【主な支援事業】

- ・子育てひろばスタッフ養成のための研修
- ・ひろば運営の課題を解決するためのコンサルテーション

■子育て・まちづくり支援プロデューサーの養成事業

特定非営利活動法人 あい・ぽーとステーション

主に定年前後の男性を対象とした「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成事業」を支援しています。子育て・まちづくり支援プロデューサーは、企業や社会で長年培われた経験やスキルを活かして、子育て支援の現場や地域を支えています。



児童館支援

■ 子どものためのNPOとの協働事業(どんどこプロジェクト)

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

どんどこプロジェクトは、子どもたちの「遊びを通じた健全育成」のため、全国各地の児童館と多分野のNPOが手を取りあって子どもたちに遊びや体験、創作などの機会を提供する取組みです。プロジェクトがスタートした平成19年度から協賛し、平成28年度は全国各地で20のプロジェクトを実施しました。



「自然探検隊」プログラムの様子

保育園・幼稚園支援

■ スミセイおはなし広場キャラバン

公益財団法人 住友生命健康財団

スミセイおはなし広場キャラバンは、地域の読み聞かせボランティアが保育園・幼稚園を訪問し、子どもたちと本との出会いや地域のふれあいのお手伝いをしています。平成13年度から各地で実施しており、平成28年度には106施設で実施いたしました。これまでに全都道府県の1,961施設の園児におはなしをお届けしました。参加した園児には絵本のプレゼントもしています。



学童保育・放課後子ども教室支援



特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール



小学生の放課後の時間を豊かなものとするとともに、子育て世代が安心して働くことのできる環境整備を目指し、全国の学童保育等にて「いのち」「健康」「未来」をテーマとした出張授業を開催しています。その他ホームページにてペーパークラフト類の無償提供等を行っています。

この取組みは、厚生労働省主催の「第4回健康寿命をのぼそう!アワード(母子保健分野)」において、厚生労働大臣最優秀賞を受賞いたしました。また「第8回キッズデザイン賞」や文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞も受賞しています。



〈プログラム例〉足が速くなる方法

小学校・中学校支援

■ 弁当の日応援プロジェクト

全国約1,800校の小中学校で実施されている「弁当の日」の推進を図るためのプロジェクトを支援しています。「弁当の日」の取組みでは、献立づくりから、買出し、調理、弁当詰め、片付けまで、親は一切手伝わず、すべて子どもたち自身が行います。この取組みを通じ、食の大切さや感謝の気持ち、自己肯定感などを育み、子どもたちに生きる力を身に付けて欲しいと願っています。また家族愛や絆を深めるきっかけになればと考えています。

この取組みは「第8回キッズデザイン賞」で消費者担当大臣賞(優秀賞)を受賞しました。



職員ボランティア

スミセイ・ヒューマニー活動



スミセイ・ヒューマニー活動は、「人間味あふれ(ヒューマン)、地域社会と調和を図れる(ハーモニー)企業でありたい」そんな想いから「ヒューマニー(ヒューマン&ハーモニー)」を合言葉に平成4年にスタートした職員参加型のボランティア活動です。

地域社会・国際社会に貢献するために、清掃活動や施設訪問、チャリティバザー、海外の子どもたちに絵本を届ける運動など多岐にわたる活動を展開しており、当社の社会貢献活動の基礎となっています。

海外部門をはじめとして、全ての支社・本社各部署が活動に参加し、25年目となる平成28年度は、209活動、延べ56,952名の職員が活動に取り組みました。



災害復興への取組み

東日本大震災・熊本地震の復興支援を目的とした主な社会貢献活動をご紹介します。

職員による活動

チャリティバザーの開催

例年、行っているチャリティバザーにおいて、売上金の一部を寄付するとともに募金活動や東北・熊本商品コーナーを設置し、購入支援を行いました。



職員ボランティア活動による支援

職員から参加者を募集し、がれきの撤去や掃除、農業や漁業の現地ボランティア活動等を実施しました。



子どもたちへの支援

東北の高校生の富士登山イベントへの支援

日本一高い山に登ることで自信をもって復興に臨んでほしいという思いから、東北の高校生を対象とした富士登山イベントを支援しました。



写真提供
東北の高校生の富士登山事務局

町づくり支援

住民主体による助け合い活動を全国に推進

東北においては引続き住民が主体となった復興のまちづくりを支援し、また熊本地震での被災地支援活動を行いました。その他全国各地でセミナーを開催するなど、共生社会づくりへ向けた取組みを支援しました。



音楽の力による心のケア

東北の病院等でのコンサートへの協賛

音楽の力で勇気付けるために、世界的指揮者である大野和士氏が病院等で行う「こころふれあいコンサート」に協賛し、平成28年度は福島県などで開催しました。



財団の紹介

住友生命福祉文化財団、住友生命健康財団の二財団にて「社会福祉」「健康増進」などの分野の社会的課題に取り組んでいます。また当社が設立メンバーである住友財団で

は、基礎科学、環境、芸術・文化、国際交流等の各分野で、研究や事業に対して助成を行っています。

一般財団法人 住友生命福祉文化財団

住友生命福祉文化財団は、昭和35年から、社会の福祉および文化の振興に貢献すべく、予防医学振興事業、福祉事業、音楽文化振興事業（いずみホール）と多岐にわたる事業を展開しています。



いずみホール（撮影：樋川智昭）

公益財団法人 住友生命健康財団

住友生命健康財団は、昭和60年から、人々の生涯にわたる心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進に貢献すべく、スミセイライフフォーラム「生きる」をはじめとした、各種取組みを行っています。



スミセイライフフォーラム「生きる」

公益財団法人 住友財団

「住友財団」は、住友グループの礎である別子銅山開坑300年を記念して、平成3年9月に住友グループ20社で設立した多目的の財団で、当社も設立メンバーの1社です。

財団の基金（225億円）の運用益を財源として、「基礎科学研究助成」「環境研究助成」「文化財維持・修復事業助成」「海外の文化財維持・修復事業助成」「アジア諸国における日本関連研究助成」などの助成を行っています。

平成28年度は、東日本大震災被災者復興支援活動に対する助成、被災した文化財の修理事業助成等も含め、280件、4億2,900万円余の助成を行いました。



平成28年度文化財維持・修復事業助成対象
大日本沿海輿地全図中図（伊能中図）
東京大学所蔵

その他の活動

24時間テレビ“愛は地球を救う”協賛

平成18年度から24時間テレビ“愛は地球を救う”に協賛し、全国で募金活動を実施しています。当社独自の取組みとして使用済み切手の回収用ボックスを作成し、当社内のみならず各企業さまにもご協力をいただき、回収活動を実施しています。放送当日にはテレビ局のメイン会場や街頭にブースを設置し、全国各支社・本社および関連会社職員が募金活動を行っています。平成28年度は皆さまのご協力のもと10,020,815円（うち使用済み切手回収による換金額356,400円）の募金を集めることができ、福祉・環境・災害復興に役立てられています。



平成28年 広島設置ブース

全国縦断チャリティコンサート

全国各地へ国内外の一流アーティストによるクラシック音楽をお届けしようと昭和61年にスタートし、平成29年度で31回目を迎えました。開始以来通算1,036回の公演が行われ128万名以上の方々にご来場いただいています（平成29年3月末現在）。

これまでに会場でご協力いただいたチャリティ募金は3億円を超え、各地の福祉事業などへの寄付や、タイやベトナムの学校校舎の建設、東日本大震災・熊本地震の被災地への義援金・支援金に使わせていただきました。

